

平成17年度留学生派遣制度

留学報告書

山城 衣智子

2005年9月から2006年8月までの1年間、アモイでの留学生活で体験した事や、感じた事を報告いたします。

アモイ

アモイへ出発した日、台湾、香港を経由してアモイへ到着したときには、すでに日が暮れてあたりは真っ暗で外は何も見えませんでした。しかしその中でアモイの空気は沖縄の空気と似ていると感じた事を今でも覚えています。

沖縄は中国との関わりが深かったため、私はアモイへ行く前、中国、特に福建省と沖縄は全体的にはそれほど変わらないと思っていました。しかし、中国はやはり外国で、沖縄とあまり変わらないだろうと想像していた私にとって、慣れるまでの間はカルチャーショックの連続でした。

一歩外に出ると、町は沖縄にはない雰囲気です。細い路地や、店の前には小さなテーブルと椅子を持ってきて、楽しそうにおしゃべりをしながらお茶を飲み、トランプをしている光景があり、電線には洗濯物が干されてあったり、とても生活感にあふれ開放的だと感じました。道を歩く人の様子までも違って見え、とにかく全てに好奇心をそそられてばかりでした。

アモイの食事はすぐに慣れました。中国の料理は日本の食事のように一人分が、まとまって出てくるのではなく、一品一品が大皿に盛られて出てきますが、量も多く、とてもダイナミックです。中国では朝食に、お粥や肉饅を食べるのが一般的で、朝食に白ご飯を食べる習慣がありません。夕食にお粥を食べる人も多く、そういった違いに驚きましたが、中国人の友人に「日本では三食白いご飯を食べるのが一般的だ」と教えると逆に驚かれました。

アモイに着いて初めの一、二ヶ月頃までは新しい環境にもほとんど不安や抵抗がなく生活できていたのですが、それからしばらく経つと習慣や環境の違いに自分が適応できずにいたり、また言葉の壁にもぶつかったりと不安や後ろ向きになることが多くなりました。

そういったものを全てふっきれるようになったのは半年を過ぎてからでした。ちょうどその頃から中国語の進歩にも変化が出始めたので、そのことも要因の一つだったと思います。そして、沖縄に帰るころには、アモイを離れることが名残惜しく、もっと留まっていたいという思いでした。

今では前半の時期を経験できたことをとても良かったと思え、またそれを乗り越えることができたという自信もつきました。

春節

中国の年間行事の中で最も大きな行事は中国のお正月の春節です。中国では普段、新暦

を用いて生活をしていますが、その中で旧暦も盛んに用いられ、行事などはほとんど旧暦に基づいて行われています。

今回、私にとっては初めての春節だったのでとても興味がありました。ちょうど春節の前、外国人に春節を中国の家庭で過ごさせよう、という新聞社の企画があるのを知り、早速私も応募することにしました。私は同安に住んでいる陳さん宅で春節を過ごす事になりました。

同安は私の住むアモイ市からバスで2時間ほどの場所にあり、農村地です。同安の中心地から離れると風景ががらりと変わり、畑が広がり、道路の脇には放し飼いの牛や鶏が散歩しています。アモイ市内ではアパートやビルがほとんどで福建省南部(閩南地域)独特の建築様式の家は、今はもう探さなければ見つからないほどなのですが、同安は大部分の住宅がそのつくりの建物でした。この建物は屋根が特徴的でとても趣があります。

陳さんは一家は奥さんと4歳の息子の三人家族で、気さくでとても優しい家族で、私の事をとても歓迎してくれました。私はこれまで日本人と接触した事がない陳さん一家に、簡単な日本料理や、日本の正月遊びの福笑、空手を通して日本や沖縄を紹介しました。

春節を体験するにあたり、私が最も楽しみにしていたのは何といても花火や爆竹でした。大晦日の夜、12時を過ぎるとあちこちで花火や爆竹が打ち上げられ、その数は私の想像を超えていました。あいにくその日は天気が悪く陳さんによると今年の花火は例年の半分程度だと言っていました、それでもものすごい数でした。そしてそれらの花火は全て個人で打ち上げていると知り更に驚きました。

陳さん一家のおかげで、アモイの春節を体験することができ、とてもいい思い出になりました。

宜野湾市、アモイ市友好都市交流事業十周年

私がアモイ留学をした2005年度は、ちょうど宜野湾市とアモイ市の友好都市合作十周年目にあたるとても喜ばしい年でもありました。11月には宜野湾市からの市民団がアモイを訪れ、私も皆さんに交じり、普通はなかなか経験できない、式典にも参加することができ、とても感激し、よい記念になりました。

野球チームの交流試合をきっかけに宜野湾市とアモイ市は交流を始め、そして現在もこのように交流が続いているということはとても素晴らしいことだと思います。

国が違えば、もちろん言葉や歴史や文化も違ってきます。そういう違いは相手と交流して初めて身をもって分かることですし、また、それを乗り越え相手を理解する事につながっていくのも交流を通してだと思いました。だから交流をするということはとても大切なことだと感じます。

第4期留学生として1年間アモイで生活をし、アモイの人々と交流ができた経験は一生忘れられない貴重な経験になると思います。今後も宜野湾市とアモイ市が交流を通じ、更

に親睦を深めていけることを心から願っております。

中国語

私はアモイへ行く前から中国語を学んでいましたが、最初のうちは周囲の中国人が話す言葉が普通語なのか、アモイの方言なのかさえも聞きわけることができず、一年後には、しっかり語学を身に付けることができるのだろうか、という不安がありました。

しかし、前回の留学生の小谷さんや神里さんが中国語を自由自在に話している姿を見て、自分も是非あんな風に話せるようになりたい！と気持ちが奮い起こされ、一年後には中国語で冗談が言える程の中国語を身に付けることを目標にしました。

学校の中国語の授業は先生と一対一というとても良い環境の中で勉強することが出来ました。相手の話す大体の意味が聞き取れ、自分の表現したい事を言い表せるようになったのは半年を過ぎた頃からでした。先生や友達が話す事は聞き取れてもそれ以外の全く知らない人が話すのは聞き取りにくく、食堂や、お店へ行くと一度は必ず店員に何か質問したり話しかけたりして、少しでも会話になれるようにしました。

現在、簡単な日常会話は話せるようにはなりましたが、まだまだ目標達成には及んでおりません。アモイで学んだ中国語を無駄にしないよう、今後も更に中国語の学習を続けていくつもりです。

アモイ留学は、私がこれまでに経験した事のない多くの事を経験させてくれました。また、その経験を通じ、私が収穫できたものはとても大きいです。それも周囲で支えていてくださった方々のおかげです。最後になりましたが、アモイで出会った友人、先生方、お世話になった皆様方、そしてこの留学を与えてくださいました宜野湾市とアモイ市に感謝の気持ちでいっぱいです。本当にありがとうございました。今後、私に何かお役に立てる事がございましたら、その時は声をかけていただけたら嬉しく思います。

中国という外国で生活をして感じた事

中国の生活、中国の人々と接していく中で中国に対する新しい発見があり、自分や自分を取り巻く環境に対してもこれまでとは違った角度から物事を見る事ができました。

特に私が関心を持った事はお互いの持つ習慣についてでした。

辞書によると「習慣」の一つの意味として、「国、地方、団体などでその中の人々が当たり前的事として行っている事柄、やり方。風習。」と表記されています。正に習慣とは生活の中でそれが常識や当たり前になっており、私自身そこに目を向ける事はあまりなかったと思います。今回初めて外国の地で生活していく中で、普段、物事を考えたり行動する際にいかに習慣の影響を受けているかということに気付かされました。

一つ例を挙げると、一概には言えませんが日本人は物事を間接的に表したり、あいまいに表現する事が多いように思われます。沖縄で生活していたとき、私自身も普段、間接的に表現する事が多々あったと思いますが、そこに気付くことはなかなかありませんでした。

それは中国の人と接していく中で、だんだんと分かってきたことです。中国に来てまだそれほど月日がたっていない頃、私はやはり日本人と接するように中国の人とも接していて、物事をあいまいに表現することがありました。そのうち、そういった表現がしっくりこないと感じるようになりしました。例えば日本人同士なら、本人がはっきりと言わずとも、相手が言わんとする事を大体察することができます。しかし、それはそういった表現方法が日常となっている日本だからスムーズに分かりあえることであって、そういう習慣がない中国の人にしてみれば、ややこしく分かりにくい表現だと思われるかもしれません。そのため意思疎通がうまくいかない事もしばしばありました。

私はそういった表現の仕方がすでに身に付き、習慣になっていたので初めは当たり前のよう中国でもそういう表現をしていました。しかし、それは日本人の表現のしかたであり中国にはまた中国人の表現のしかたというものがあります。

お互いの表現のしかたに違いがあると分かってからは、中国で生活をしているのだから、私も中国の人々のように表現していけたらもっともっと周囲の人々とのつながりが深くなるだろうと思い、中国人の友人同士や、店にいる人達がお互いどのように接しているのかを意識して観察するようにしました。そして彼らが表現するように私も表現してみました。

これは私の視点から見えた部分であり、もちろん見えていない部分もまだまだあるので、実際そう言いきれんかどうかは分かりませんが、中国の人は自分の意思表示がはっきりしています。私がそのように感じるのは、接していく中での感覚ですが、日本人ならおそらく間接的に表現するだろうという状況の下でもはっきりと表現する傾向がある事からそうみています。初めははっきりと自分の意思表示をすることに少し抵抗もありましたが、中国では私が考えているよりもそれは自然な事であり、また周囲もそういう接し方だったので、すぐに慣れました。

私自身もはっきりと物事を表現していく中で、日本人と中国人はなぜ表現のしかたが違

うのか、という疑問が出てきました。これはおそらく、歴史や社会環境、もしくは自然環境などさまざまな要因が関連しあって形成されてきたものだと思いますが、日本と中国は地図で見るとあんなにも近く、昔から文化交流や学問交流など盛んに行われてきているのにも関わらず、そういう違いがある事に驚きました。

本来、人の自然な表現のしかたは自分の考えを率直に伝えることだと思います。そう考えると間接的やあいまいな表現が比較的多い日本人のような表現のしかたは少し不思議な事かもしれません。そうだとすると、そうなった過程には文化や何か人間的な要素が大きく影響を与えてきたはずで、日本人がなぜそういった表現をするようになったのかという新たな関心が生まれました。

日本では常識であたりまえの事でも中国へ行くとそうではなくなることもあり、逆に中国では常識となっていることでも私にとっては特別な事でもあったりしました。

人は何かものを捉えるとき、自分なりに考えるとき、自分の中にあるものさしを基準にしてそれらを図っていると思います。そしてそのものさしは自分を取り巻く周囲の環境の影響を大きく受けていて、そうなる人の物事の捉え方にもその人を取り巻く環境が大きく影響していると言えると思います。

沖縄で生活していた頃、私の周囲は沖縄育ちの人ばかりでしたが、逆に中国では私と異なる環境で育った人々がほとんどでした。そういった中で感じたのは、一人一人の個性はもちろんありますが広い範囲で見ると、同じ環境で育った人同士は考え方などにおいても共通する部分がありそれが地域性というものにつながっていくのかもしれませんが。ものの考え方や、捉え方が自分を取り巻く環境の影響を受けているとすると、私の普段の捉え方は、ただある一点を基準とした捉え方にすぎなかったと思います。そのように考えると一つの物事を見る上でも見方は一面だけから捉えるのではなく多方面から物事を捉えた方がより幅広くなり、そのことがまた国際交流の中でも、とても大切なことだと実感しました。

外国の人と交流する際に、お互いの環境や習慣に違いがある事は当然だと認識し、それを受け入れ、相手を理解することで更に深い交流がもてると思います。そこには、相手を理解しようとする自分自身の前向きな気持ちや姿勢が重要である事を今回のアモイ留学で学びました。